

同窓の仲間たちと、 再びここでともに学び、高みを目指す。

講義内容をメモしたノートは 私の宝物

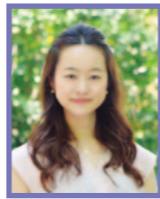
大学院卒業後に就職し、今年社会人10年目を迎えました。職場においては大小さまざまなプロジェクトのリーダー的役割を求められる場面も増えてきました。まだ管理職として組織をマネジメントするミッションは与えられていませんが、その役割が与えられてから学ぶのではなく、役割が与えられる前に真のリーダーから学びたいと思い、入塾いたしました。

毎回、日本を代表する企業の経営者の方々からお話を伺い、その魅力的なお話に引き込まれ、あっという間の2時間でした。各講義では、大きな視点を持ち続けること、相手を知ること、世界を知ること、自己を鍛える場所と時間はどこにでもあること、変えるべきことと変えてはならぬことを判断できるようになること等、リーダーとして大切なことをたくさん気付かせていただきました。講義内容をメモしたノートは私の宝物です。三日月塾では何か新たな知識を得ようとするのではなく、ここで得た気付きから、自分自身を見つめ、振り返り、よく考え、そして職場

に戻って行動に移すことが大切だと思いました。

また実際に三日月塾に参加してみて、共に学ぶ同窓の仲間と出会えたことも、非常に貴重な機会だと感じました。普段の生活では異業種のネットワークはなかなか広がりませんが、この三日月塾に参加することで、会社という枠を超えて、高い志を持った多様なメンバーと出会い、輪を広げることができたと考えます。塾後には有志が集まり、意見交換を行い、仲間からたくさんの刺激をもらいました。塾後の集まりに参加するたびに、明日から自分ももっと頑張らねばと感じました。

この三日月塾に参加させていただき、普段なかなかお会いできないような現役経営者の方々や、重名塾長・谷口副塾長のお話からたくさんを学び、考え、そして塾生同士で切磋琢磨することができました。このような恵まれた環境で、再び学ぶことができたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



日本電気株式会社
IMC本部 デジタル戦略グループ 主任
鷲田 梓
(2007年 経済学部卒)

常に「鍛錬」が 大切であると気づきを得た日々

「会社のビジョンが見えない」「チャレンジングな仕事にしても評価がされにくい」、これが私の悩みでした。

業績不振、中期計画のビジョンが見えない不安を抱えて過ごしています。一方で新たな事業を創るべくベンチャー企業との共創を通じた新規事業を担当していますが、成果が出るまでに時間がかかり評価もされにくい。この現状にモチベーションを維持することが辛く、苦しい毎日を過ごしていました。そんな中、カゴメ株式会社の元会長、西さんから言われた2つことが心の支えとなっています。一つは「自分が思う会社ビジョンを持てばいい。それが明日の会社のビジョンとなる」。自分が現場で感じたものをそのままカタチすればいいと思ったら、急に楽になりました。経営方針も変わるので、腹落ちしない経営方針にこだわる必要はないんだと。

もう一つは「高い評価を勝ち得るなら、他部署の発言権を奪うようチームのプレゼンスをあげなさい」。これまでは個人のスキル・成果を高めることに意識が強すぎました。

しかし自分の意思、評価が反映されない環境においていくら頑張っても有利な環境にはならない。ならば、チームで勝ち、組織を掌握するとともに自分が思い描くビジョンを具現化すればいいのだと。

ところで、どの講師の方も「奉仕のための練達」について語られ、自分個人を富ませるのではなく、社会に奉仕することを実践されていることに感銘を受けました。改めて自分に「奉仕のための練達」ができているかと問うてみると、自分個人を富ませる方に意識が強く、高い視座が足りないと気づきました。

今後は、三日月塾で得た知見や、卒業生、母校のネットワークを通じて社会課題を解決する新事業に引き続き挑み、いつかは奉仕の練達ができるよう精進したいと思います。

三日月塾を通して、明日も会社で戦える勇気をいただけたことに対し、講師の皆さん、重名さん、谷口さん、木村さんへ、心より御礼申し上げます。



富士通株式会社
ベンチャー協業推進部
松尾 圭祐
(2002年 社会学部卒)

ぶれない“Mastery for Service”を カラダで感じて

私は、三日月塾史上最高齢の53歳で、2018年の講義を受けました。昨年、長年勤めた商社を退社し、新しい立場で仕事をするにあたり、色々なことを学ぼうと考えたのが発端です。

三日月塾での学びを通して最も心に残った点は、各講師の先輩方による“Mastery for Service”の体現のされ方です。関学のOB・OGなら、入学時からこのスクール・モットーについて、その由来や意味するところは詳しくご存じだと思います。私自身も、もちろんそこまでは知っておりました。ただ、これまでの自分は、これは理想を掲げた文言で、実際の自分とは少し距離を置いたものだとぼんやり感じていました。

しかし、今回の三日月塾において、各講師の方々、重名塾長、谷口副塾長の講義、講話を聴き、“Mastery for Service”がどういうものであるかを、自分なりにアタマではなく、カラダで感じられたことです。

それぞれのビジネスの現場で重職を担われ、活躍されている企業のトップの方々が、企業・社員・社会全体にとってどれだけの深い思いでビジネスをされているのか、そしてその底流に関学で学んだ“Mastery for Service”という軸がぶれずに存在するのを、間近でお聞きすることで初めて理解できました。この経験は、本でもインターネットでも得られない、その場にいた人間でないと感じられない、素晴らしい経験でした。

各講師の方々が成されたことには遠く及びませんが、私自身もこの塾で学んだことを活かし、今後の自分の活動を通し、少しでも多くのServiceを生み出していきたいです。

そして今回の大きな財産は、多くの仲間を得られた点です。講義だけでなく、懇親会の席、またSNSでの繋がりを通じてお互いの活動、悩みを共有し、刺激しあっています。

今後もこの繋がりが発展していくことを、今から楽しみにしております。



三菱製鋼株式会社
営業企画部 シニアマネージャー
塚本 貞紀
(1990年 経済学部卒)

新しい視野、 新たな物事の判断基準を持つきっかけに

卒業後、オリックスでの仕事や社内外の方々と交流を通して、自らの知識・経験が如何に未熟であるかを幾度となく痛感し、その都度目の前の必要な知識を自己流で吸収しつつ勉強方法を模索する日々であったため、「三日月塾」のお話をいただいたのは願ってもないことでした。まだ社会人7年目である私が母校ご出身の錚々たる方々の講話を拝聴し、ディスカッションに参加する機会に恵まれたことは、新しい視野、新たな物事の判断基準を持つきっかけとなりました。中でも特に印象深い内容について3つ挙げたいと思います。

1つ目は、「自分の立ち位置を考える」です。縦軸として歴史を学び、横軸として現在の世界を捉えることで自分の立ち位置を知る。その上で日々起きているニュースの背景について思考を巡らせると、日々の業務のみでは得られない、深い洞察が可能になると感じました。

2つ目は、「KG出身者」です。KG出身者は安定志向の傾向があり、何かを自ら切

り開いていくという気概をあまり持たず、他大学にポジションを奪われていく。私の心に大きく響きました。これは現在のグローバル社会における日本人の存在感の薄さにも共通していると感じます。この現状を払拭すべく、まずはこの三日月塾にて偉大な先輩方から人間力、専門知識、リーダーとしての資質について学ばせていただき、自らが組織を牽引していける人材になりたいとの思いを強くしました。

最後は、「塾生との交流」です。三日月塾において、年齢が近く多様な業種の意識の高いプロフェッショナルの方々との出会い、表面的な会話ではなく本音で話せる関係を築くことができました。これは他では得難い環境だと思っています。自らの知見の浅さに気付くと同時に、所属する会社・仕事を多様な視点から捉えるきっかけとなりました。

この三日月塾での経験が、かけがえのない財産となり、今後自らが成長していく上での大きな力になることを確信しております。



オリックス株式会社
福山支店 次長
松尾 振弦
(2012年 理工学部卒)

背筋が伸びる思いで臨んだ、 毎回の講義

尊敬する上司の方々が三日月塾OBで、三日月塾のお話はよく伺っておりました。日本を代表する企業経営者の方々のご講義を受けるという普段経験できない貴重な学びの場であること。三日月塾は、管理職ではない私には敷居が高すぎると思っておりましたが、幸いにもご縁をいただき、入塾することができました。

毎回の講義には背筋が伸びる思いで臨みました。第一線で活躍されている経営者のお言葉は心に深くしみ入り、刻まれました。ビジョンや経験談、思い、お考えをお聴かせいただき、多くの気づきと学びを得ました。大きな財産となりました。思い切って質問した際、丁寧にご回答くださったことに感動し、同時に勇気をいただきました。また、お人柄に触れることができた大変貴重な機会でもありました。本当に素晴らしい講師陣で、人間力の高さ、人としての幅の広さも間近で感じました。

三日月塾という学びの場で、自らを見つめ、振り返り、再確認しました。目的意

識をもって行動できているか。コミュニケーション力の大切さ。責任感。自分のぶれない軸を持っているか。相手軸を意識しているか。そして、改めて“Mastery for Service”を考えました。自身の成長のために、組織や社会に貢献するために、自らを鍛え、出来得る限りのことを行っていきます。

塾生の方々との交流できたことも宝の1つになりました。異業種の方々との出会い、交流を重ね、繋がりが出来たことも大変有難く思っています。

最後に、私達塾生のために特別な時間をご用意くださった講師陣の先輩方、重名塾長、谷口副塾長、サポートいただいた皆様、塾生の皆様に心より感謝申し上げます。三日月塾で得た知見と学びを今後の仕事、そして人生に役立ててまいります。ありがとうございました。



東京海上日動火災保険株式会社
関西営業第一部・営業第三課 主任
宮口 玲美
(1995年 社会学部卒)

インタラクティブな質疑応答で 理解を深めることができた

三日月塾で得られる一番のものは、経営者がどのような考え方をしているかを知ることができることです。しかも、1年間で一気に9パターンも。それは、自分に足りないものを浮き彫りにさせてくれると共に、自分の強みにも気づかせてくれ、さらには、目指すリーダー像を具体化させてくれます。

私は、広報を業務にしており、経営の考え方を理解することに課題を感じていました。また、自分自身が「どのような人になりたいか」ということも悩んでいたため、経営者がどのような人で、どのような考え方をするのかを学びたいと思い入塾を志望しました。

講義を通して、経営者の方々が自分と違うことは「覚悟」を持ち、「学び続け」、「変化し続けている」ということでした。人によって感じ方は違いますが、企業のトップと自分たちで何が違うのか、そのエッセンスを学べる場が三日月塾です。

三日月塾は、一方的な講義だけではなく、塾生と講師のインタラクティブな質疑

応答が十分にあり、理解を深めることができます。私は、リーダーの考え方を学びたかったので、講義の中で一番気になった「WHY」をいつも聞いていました。経営者に直接質問できる機会は、普段、そう多くあるものではないと思います。この質疑応答が三日月塾の非常に大きな価値だと実感しています。そのため、受け身で聞いているだけでは、三日月塾を十分に活かせません。講義を聞き、質問をして理解を深める。それを、少しずつでも日常で実践することが重要だと気づきました。私自身、毎回の講義で1つずつ実践することを決めてやっていると、業務の中でも考え方の幅が広がり、変化を実感できています。

三日月塾はリーダーを目指したい人、もっと成長したい人などに非常にオススメです。そこには塾生という「仲間」もいます。仲間同士の話は刺激になり、その人脈は大きな財産になります。積極的に学びたいと思っている方はぜひチャレンジしてみてください。



オムロン株式会社
ブランドコミュニケーション部
大西 栄樹
(2010年 商学部卒)